

日時：2013年3月9日（土）14：00～18：00

場所：国際文献社内会議室（江戸川橋）

日本パーソナリティ心理学会第108回常任理事会

出席者：浮谷秀一理事長、中村真副理事長、家島明彦、小塩真司、松田英子、山崎晴美、渡邊芳之

事務局：加藤司（事務局長）、太幡直也（幹事）

欠席者：二宮克美、松田浩平

報告事項

I 理事長挨拶（浮谷理事長）

II 各種委員会報告

1 機関誌編集委員会（渡邊委員長）

(1) 「パーソナリティ研究」の編集発行状況について

1) 「パーソナリティ研究」第21巻第2号

平成24年12月10日までに会員に発送された。

2) 「パーソナリティ研究」第21巻第3号

第21巻第3号は以下の13本（原著6、資料2、ショートレポート5）を掲載。国際文献で再校の作成中である。3月中の発行を目指す。

掲載番号	種別	題目	筆頭者	受稿	受理
21-3-1	原著	レバートリー・グリッド法を適用してとらえた社会不安の特徴	阿部 ひと美	2011/3/30	2012/7/22
21-3-2	原著	青年女子のダイエットにおける完全主義的自己陳述尺度の作成と信頼性、妥当性の検討	矢澤美香子	2010/4/23	2012/7/31
21-3-3	原著	大学入試に対する認知的評価とストレス対処が情動知能の成長感に及ぼす効果	野崎優樹	2012/4/9	2012/9/4
21-3-4	原著	ナラティブとしての女性の化粧行為～対話的場所と宛先	木戸彩恵	2010/11/1	2012/9/7
21-3-5	原著	中学生の学業領域における自己価値の随伴性が動機づけおよび学業達成に及ぼす影響プロセス	大谷 和太	2010/8/16	2012/9/21
21-3-6	原著	集中的気晴らしに関するメタ認知的信念と抑うつに関する検討	服部陽介	2011/11/12	2012/10/26
21-3-7	資料	中学校教師におけるバーンアウト尺度の因子構造の検討	森 慶輔	2011/5/13	2012/11/5
21-3-8	資料	平均的な学業水準との比較による学業的自己概念の形成—学業水準の高い高校に所属する生徒に焦点を当てて—	鈴木 雅之	2012/7/6	2012/11/5
21-3-9	ショートレポート	刺激希求と親や仲間の飲酒行動が青年期の飲酒行動に与える影響	柴田 由己	2012/3/29	2012/8/9
21-3-10	ショートレポート	対人ストレスサー尺度作成の試み	高橋幸子	2011/8/1	2012/8/20
21-3-11	ショートレポート	熟語への潜在的選好の変容に関する研究—顕在的指標との関連も含めて—	藤井 勉	2012/4/22	2012/9/21
21-3-12	ショートレポート	インターネット版ブライバシー次元尺度の作成	佐藤 広英	2012/8/9	2012/10/26
21-3-13	ショートレポート	大学生の対人ストレス場面における気晴らしの問題解決促進過程—気晴らし頻度、反すう、活動選択の知識の影響に着目した検討—	及川恵	2012/3/13	2012/11/1

3) 「パーソナリティ研究」第22巻第1号

以下の9論文(原著3、資料1、ショートレポート4)が採択。ほかに修正採択修正中の論文が8本ある。

番号	種別	題目	筆頭者	受稿	受理
S-226	ショートレポート	日本語版セッション評価尺度(The Japanese Session Evaluation Questionnaire: J-SEQ)作成の試み——カウンセラー評定による検討	桂川 泰典	2012/5/28	2012/11/9
A-296	原著	学業場面における誘惑対処方略尺度の作成	小林麻衣	2011/12/18	2012/11/16
S-230	ショートレポート	エフォートフル・コントロールは検索誘導性忘却を予測する	小林正法	2012/7/31	2012/11/27
S-225	ショートレポート	日常生活の中で生じるフォーカシング・プロセスによる感情制御と人生満足度との関連:感情プロセス認識尺度第2版による検討	酒井久実代	2012/4/22	2012/11/27
A-289	原著	中高年期における感情調整の発達に関する横断的研究—年齢,身体機能,感情調整,精神的健康の関心に注目して—	中川 威	2011/9/12	2012/11/27
A-294	資料	Ego-Resiliency尺度:ER89日本語版作成と信頼性・妥当性の検討	畑 潮	2011/11/25	2012/12/13
A-302	原著	対人不安IATの作成および妥当性・信頼性の検討	藤井 勉	2012/3/21	2012/12/13
S-222	ショートレポート	被虐待児におけるBigFive性格特性の分析	緒方康介	2012/4/15	2012/12/13
S-204	ショートレポート	高校生における仮想的有能感と対人関係との関連—仮想的有能感の変動に影響を及ぼす要因の検討—	松本 麻友子	2011/5/13	2013/1/9

(2) 投稿状況、審査状況について

*投稿状況について

昨年3月からの投稿状況は下表の通りである。

年	月	原著	資料	ショートレポート	展望他	合計
2012	3	2	1	4	0	7
	4	4	1	4	0	9
	5	0	0	2	0	2
	6	1	0	1	0	2
	7	3	3	2	0	8
	8	2	0	1	0	3
	9	0	2	0	0	2
	10	1	1	2	0	4
	11	1	3	1	0	5
	12	2	0	2	0	4
2013	1	2	0	2	0	4
	2	4	1	0	0	5
合計		22	12	21	0	55

*審査状況について

同じく今年1月からの審査状況は以下の通りである。

年月	採択	要修正再審査	不採択	投稿取下	備考
2012/3	4	5	1	0	
4	3	3	5	2	
5	1	4	0	0	
6	2	10	4	1	
7	4	8	5	0	
8	2	7	1	0	
9	3	5	0	1	
10	2	15	1	0	
11	7	9	3	0	
12	2	6	0	1	
2013/1	1	2	1	1	
2	1	8	3	2	
合計	32	82	24	8	

(3) その他

1) 投稿論文種別の変更について

「パーソナリティ研究」投稿論文種別の「原著」「ショートレポート」のみへの変更について、必要な編集規程、投稿者用チェックリスト等の改正点が提案された。

* 「パーソナリティ研究」編集規程の改正について

投稿論文種別のうち「資料」「展望」「討論」を廃止することに伴い、編集規程を改定し、議論の末、承認された。

編集規程の改正に関する会員への周知については、可能な限り早い段階で、「パーソナリティ研究」誌上および学会 web ページ上で周知することになった。

2) 編集事務局業務の一部外注について

編集事務局業務のうち当面は新規投稿および修正投稿の受付業務のみをアルバイトに依頼することにしたい。アルバイトへの依頼は4月1日以降できるだけ早くをめぐりに進めることが承認された。

3) 「パーソナリティ研究」掲載論文のデータ公開について

掲載論文で使用されたローデータの公開は研究の再現性確保や研究上の不正防止に大きな意味を持つだけでなく、メタ研究など新しい研究を刺激する点でも注目されている。「パーソナリティ研究」掲載論文のデータ公開について議論がなされ、さらなる検討は、編集委員会あるいは別の部署で検討するのを含めて、さらなる検討をすることになった。

2 経常的研究交流委員会（代理：加藤事務局長）

(1) 委員会企画講演会・拡大座談会

第一部 講演：川端裕人氏「PTA：しんどかったらやめちゃえば」

第二部 拡大座談会「PTA、苦役か利益か、義務か権利か、業務かサークル活動か」

パネラー：川端裕人氏（文筆家）・尾見康博（山梨大学）

日時：平成 25 年 2 月 23 日（土）14 時～16 時 20 分

場所：青山学院女子短期大学 S101 教室

参加者：約 40 名

3 広報委員会（家島委員長）

現在計画中である大会企画について、報告がなされた。

4 国際交流委員会（小塩委員長）

ARP ニュースレター“P” に記事を掲載した。

The 21st Annual Meeting of the Japan Society of Personality Psychology (JSPP)

http://www.personality-arp.org/newsletter07/japan_conference.html

5 学会活性化委員会（松田委員長）

(1) 委員構成

委員長：松田英子（江戸川大学）、副委員長：東海林麗香（山梨大学）

委員：堀毛一也（東洋大学）、森津太子（放送大学）、内藤まゆみ（高崎経済大学）、三保紀裕（京都学園大学）、中村真（江戸川大学）、橋本空（江戸川大学）

(2) 第 21 回大会優秀賞

○中村真／江戸川大学，松田英子／江戸川大学

大学生の自動思考に影響する要因の検討—恥意識とコミュニケーション・スキルからの分析—

○川崎直樹／北翔大学

自尊源への随伴性・充足性と自己愛パーソナリティの関連—"自己愛的"な者は自己をどのように愛するのか？—

○成田健一／関西学院大学

加齢による公的自意識の生涯発達的变化—私たちは誰の目を意識しているのか？—

○小林麻衣／東洋大学

設定目標の性質の違いが誘惑対処方略の有効性に及ぼす影響—目標達成が困難・容易な学業目標においての検討—

○渡辺伸子／筑波大学

お金に関する行動が他者に与える影響

○吉澤寛之／岐阜聖徳学園大学，福井裕輝／犯罪精神医学研究機構

中学生におけるサイコパス特性と社会的情報処理の関連—前頭葉機能を統制した検討—

以上、承認された。

6 各種電子化検討小委員会（代理：加藤事務局長）

特になし。

7 選挙規程検討小委員会（中村委員長）

(1) 委員構成

委員長：中村真（江戸川大学）

委員：加藤司（東洋大学）、松田英子（江戸川大学）

以上、承認された。

(2) 会則第8条（役員）および選挙規定について、提案がなされた。

8 20周年記念小委員会（代理：浮谷理事長）

委員構成を検討中である。

III 日本心理学諸学会連合（浮谷理事長）

1 日本心理学諸学会連合について

国家資格心理師大学院カリキュラム（案）についての説明がなされた。

2 心理学検定について

IV 事務局報告（加藤事務局長）

報告事項はなく、審議事項へ。

V 第22回大会準備状況について（松田英子大会準備委員長）

大会について説明がなされた。

VI 「パーソナリティ心理学ハンドブック」（浮谷理事長）

* 「パーソナリティ心理学ハンドブック」が完成し、発刊されたことが報告された。
出版契約書（案）が提示され、説明された。

VII その他

1 第23回大会について

尾見康博（山梨大学）と交渉中である。

審議事項

1 2011年度決算・2012年度予算に関する件（山崎財務担当常任理事）

(1) 決算に関する報告に関して、説明がなされた（健全な決算報告のために、注意事項などの説明がなされた）。次期常任理事会までに報告するように要請があった。

(2) 名誉会員の懇親会・参加費の負担について

大会補助費を10万円増額し、50万円とし、名誉会員の懇親会・参加費は大会負担とすることが理事長より提案され、承認された。

(3) 「パーソナリティ心理学ハンドブック」を名誉会員に寄贈するのか、という議案が理事長より提示され、記念事業の一環として、寄贈することが承認された。

2 第107回常任理事会議事録承認に関する件

承認された。

3 新入会員に関する件

(1) 新入会希望者

該当者なし。

(2) 退会希望者

下記の会員が大会を希望し、承認された。

院生会員6名、一般会員2名の退会が承認された。

以上、承認された。

(3) 会員報告

以上の承認を受けて、3月4日現在、会員総数は895名である（一般会員596名、院生会員284名、学生会員6名、名誉会員8名、賛助会員1名）。

4 名誉会員推挙に関する件

名誉会員対象者となる70歳以上の会員リストが呈示されたが、推薦者はなかった。

5 退会処分に関する件

別紙の通り、今月末での対象者は48名であることが報告された。

6 国際文献社との契約更新について

原案通り、承認された。

7 その他

大会参加費および交通費・旅費は、企画した委員会が支払い、その金額や支払うかどうかは委員会の範囲内で支払うことができる、ことが決定した。謝金の支払いはしないこととする。原則は、非会員、会員を十分に考慮して、大会を企画することになった。

次回常任理事会は6月15日、14:30から